

第5次
富士宮市地球温暖化対策実行計画
(事務事業編)

令和5年度結果報告書

令和6年11月

富士宮市 環境企画課 環境エネルギー室

1 計画の概要

(1) 計画期間

実行計画の期間：2020（令和2）年度～2030（令和12）年度

本計画の期間は、2020（令和2）年度から2030（令和12）年度までの11年間としています。本計画の策定に当たっては、基準年度を2013（平成25）年度として削減目標等を定めます。

なお、社会情勢の変化、法改正等により、必要に応じ見直しを行います。

(2) 温室効果ガス排出削減目標

削減目標：2030（令和12）年度までに2013（平成25）年度比で41.7%削減する

分野別排出量の削減目標を、次のとおり設定します。

（単位：t-CO₂）

排出起源		基準年度実績 2013(平成25)年度	2030(令和12)年度目標	
電気の使用		16,445	電力使用量の削減及び新エネルギー等の導入により、温室効果ガス排出量を基準年度比で約16%削減します。	13,900
燃料の使用	都市ガス	3,248	燃料使用量の削減及び新エネルギー等の導入により、温室効果ガス排出量を基準年度比で約3%削減します。	3,150
	LPガス			
	A重油			
	灯油			
	ガソリン・軽油 (公用車燃料除く)			
公用車燃料		426	公用車使用による燃料(ガソリン及び軽油)使用量の削減により、二酸化炭素排出量を基準年度比で約16%削減します。	360
プラスチックごみの燃焼		24,534	プラスチックごみの焼却量の削減により、二酸化炭素排出量を基準年度比で約70%削減します。	7,800
その他 ・自動車(エアコン、走行) ・下水、し尿の処理		1,973 (平成25年度値が不明のため、平成26年度実績値を使用)	可能な限り削減に努めますが、数値目標は定めません。	1,973

(3) 計画の対象物質

本計画では、温対法第2条第3項が対象としている下記の7種類の温室効果ガスを対象とします。

名称	概要	地球温暖化係数 (温室効果)
二酸化炭素 (CO ₂)	主に石油や石炭などの化石燃料の燃焼により排出されます。エネルギー消費を伴う日々の生活と密接に関係しています。	1
メタン(CH ₄)	水田や家畜の腸内、廃棄物最終処分場における有機物の嫌気性発酵等において発生します。	28
一酸化二窒素 (N ₂ O)	化石燃料や一般廃棄物の燃焼、農用地の土壌や家畜排泄物等から発生します。	265
ハイドロフルオロ カーボン類(HFCs)	冷凍機器、空調機器の冷媒や断熱材等の発泡剤等に使用します。オゾン層を破壊しませんが、強い温室効果があります。	4~12, 400 【1,300(HFC-134a)】
パーフルオロ カーボン(PFCs)	主に半導体の製造工程等において使用されます。強い温室効果があります。	—
六ふっ化硫黄 (SF ₆)	主に電気絶縁ガスや半導体製造工程等において使用されます。強い温室効果があります。	—
三ふっ化窒素 (NF ₃)	半導体製造でのドライエッチングやこれらの製造装置のクリーニングに使用。	—

2 温室効果ガス排出状況

(1) 種類別の温室効果ガス排出量

(単位：t-CO₂)

温室効果ガス の種類	年度		
	令和4年度	令和5年度	前年度比
二酸化炭素(CO ₂)	29, 250	26, 789	8. 4%削減
メタン(CH ₄)	381	425	11. 5%増加
一酸化二窒素(N ₂ O)	1, 146	1, 004	12. 4%削減
ハイドロフルオロカーボン類 (HFCs)	4	3	25. 0%削減
パーフルオロカーボン(PFCs)	—	—	—
六ふっ化硫黄(SF ₆)	—	—	—
三ふっ化窒素(NF ₃)	—	—	—
合計	30, 781	28, 222	8. 3%削減

※小数点以下を端数処理(四捨五入)しているため、合計と一致しない場合があります。

(2) 温室効果ガス排出量とその推移

(単位：t-CO₂)

排出起源		年度	平成25年度 (基準年度)	令和4年度	令和5年度	基準年度比	前年度比	令和12年度 (目標値)
電気の使用			16,445	13,805	14,072	-14.4%	1.9%	13,900
燃料の使用	都市ガス		3,248	2,547	2,207	-32.1%	-13.3%	3,150
	LPガス							
	A重油							
	灯油							
	ガソリン・軽油 (公用車燃料除く)							
	公用車燃料	426						
プラスチックごみの燃焼			24,534	13,140	10,660	-56.5%	-18.9%	7,800
その他 ・自動車(エアコン) ・下水、し尿の処理			1,973	926	906	-54.1%	-2.1%	1,973
合計			46,626	30,781	28,222	-39.5%	-8.3%	27,183

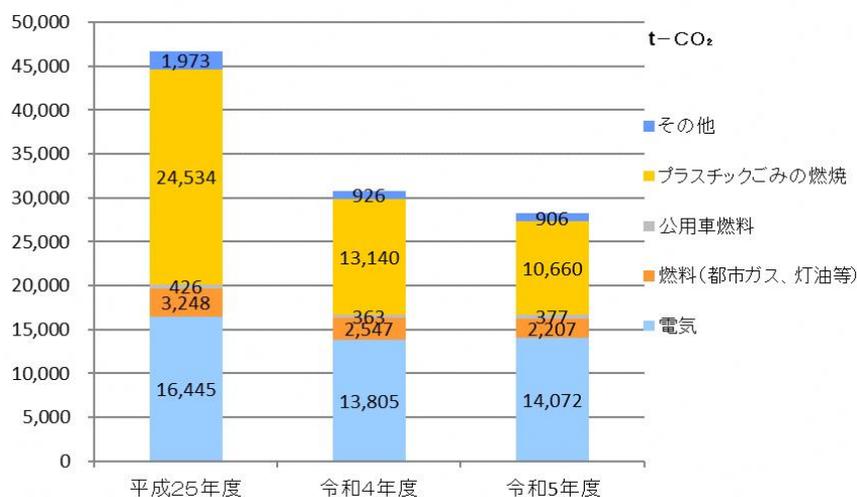
※小数点以下を端数処理(四捨五入)しているため、合計と一致しない場合があります。

電気の使用については、主に新型コロナウイルス感染症対策による行動制限が解除され、各施設の利用が増加したことや、夏季の猛暑に伴うエアコンの使用が増加したことにより、前年度より排出量が増加しました。

燃料の使用については、設備の更新や稼働方法の見直し等によりA重油や灯油の使用量が減少したこと、さらに都市ガスや灯油の排出係数^{※1}が下がったことから、前年度と比較して排出量が減少しました。

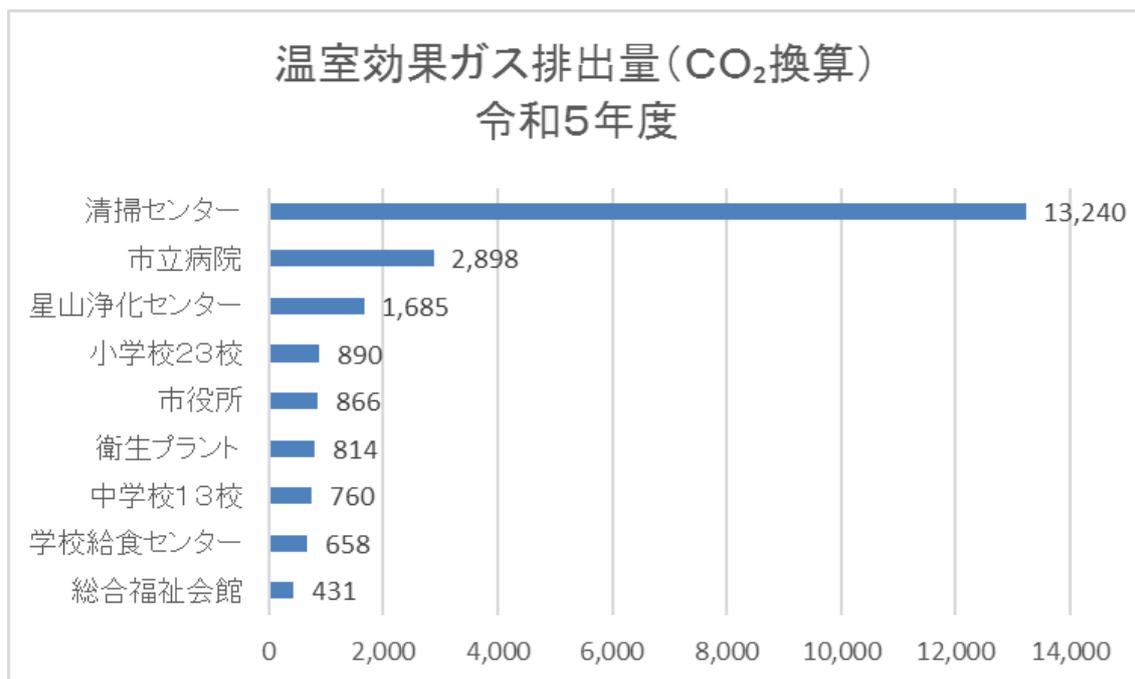
公用車燃料については、新型コロナウイルス感染症対策による行動制限が解除され外出が増えたことや災害派遣の影響で公用車の利用が増えたため前年度より排出量が増加しました。

プラスチックごみの燃焼については、清掃センターにおけるプラスチックごみの焼却量が減少したため、前年度より排出量が減少しました。



※1 電気や熱など、エネルギーを生産・利用した際の温室効果ガス排出量を算定するための係数

(3) 主要施設別の温室効果ガス排出量

(単位：t-CO₂)(単位：t-CO₂)

施設名	二酸化炭素 (CO ₂)	メタン (CH ₄)	一酸化二窒素 (N ₂ O)	合計
清掃センター	12,713	1	526	13,240
市立病院	2,898	-	-	2,898
星山浄化センター	1,041	237	407	1,685
小学校23校	890	-	-	890
市役所	866	-	-	866
衛生プラント	753	50	11	814
中学校13校	760	-	-	760
学校給食センター	658	-	-	658
総合福祉会館	431	-	-	431
合計	21,010	288	944	22,242

※市の事務事業全体で排出された温室効果ガスは、国の法律に従い、CO₂の排出量に換算し、表記しています。

上図は施設別の温室効果ガスの排出量について、温室効果ガス別に示した図と表になります。

二酸化炭素については、プラスチックごみの燃焼からの排出量が多いことから、清掃センターが最も多く、次いで市立病院、星山浄化センターからの排出の順となっています。

メタンについては、星山浄化センターの下水処理からの排出が最も多く、次いで衛生プラントからの排出となっています。

一酸化二窒素については、清掃センターのプラスチックごみの燃焼からの排出が最も多く、次いで、星山浄化センターの下水処理からの排出の順となっています。

3 令和5年度取組結果

(1) 省エネ設備の導入

施設名称	導入設備
芝川会館	LED 照明
富士宮聖苑	LED 照明、給湯設備の更新
療育支援センター	LED 照明
長生園	LED 照明
保健センター	LED 照明
大和倉庫	LED 照明
椿沢水源	LED 照明
万野配水池	LED 照明
星山浄化センター	LED 照明
市立病院	LED 照明
中央消防署	LED 照明
富士宮第一中学校	LED 照明
西公民館	空調設備の更新
南部公民館	空調設備の更新
埋蔵文化財センター	LED 照明
西富士図書館	LED 照明

(2) 公用車の利用状況

車	台数
プラグインハイブリッド車(PHV)	2台
電気自動車(EV)	4台